

「ブラジル横町街歩き日帰りの旅」ツアーに参加して

多文化共生課 小山 佳男 マット・ダグラス

9月11日（土）に（財）群馬県観光国際協会と大泉町観光協会が企画実施している「ブラジル横町街歩き日帰りの旅」に体験参加をしてきました。

当日は、年1回の大きな祭りでもある「大泉カルナバル」開催日でもあったため、通常のツアー内容とは若干異なりましたが、リトルブラジルを十分に体験させていただきました。

このツアーの取り組みの経過については、自治体国際化フォーラム10月号（Vol.252）で（財）群馬県観光国際協会からも紹介されています。

【日 程】

- 10：30 東武西小泉駅集合
- 10：50 ブラジル文化を体験（ブラジリアンプラザ）
- 11：45 ブラジル料理昼食（レストラン プリマヴェーラ）
- 13：30 ブラジルコーヒー試飲（バナナブラジル）
- 14：15 ブラジル物産店めぐり&ショッピング（TAKARA・キヨスケ他）
- 15：15 大泉カルナバル&活きた世界のグルメ横町見学
- 16：40 東武西小泉駅にて解散
（全て、徒歩にて移動です。）

【当日の様子レポート】

当日のツアー参加者は25人。群馬県観光国際協会や、大泉町観光協会の方々、日系3世のツアーガイドの方々を迎えられ、ツアーが開始となりました。

まず、最初の目的地ブラジリアンプラザに向かったのですが、たかだか300m程度の移動にもかかわらず、「えー！ここが日本なの？」と驚かされること続発。駅前にある飲み物の自動販売機には、「インカコーラ」、「ガラナ」、「FOCO」など、見たことも聞いたこともない飲み物が販売されているし、店先には、ポルトガル語のフリーペーパーや雑誌がいたる所に置いてあり、道路沿いには、ポルトガル語の看板ばかりで、日本語のものは全く無いような状況です。



ポルトガル語のフリーペーパー



道路沿いの看板

もっとびっくりしたのが、駅から50m程度の道路沿いに、タトゥー（刺青）ショップが数軒お店を構えています。一般の日本の町並みでは、考えられない光景です。これも、文化の違いということなのでしょうが、ツアー開始早々驚くことばかりです。



タトゥーショップの看板

【ブラジリアンプラザ】

さて、最初の目的地のブラジリアンプラザ、ここは、大泉町で最初にできたブラジル人の方々のための施設です。大泉町だけでなく、近隣からも多くのブラジル人の方々が集まって情報交換などをするそうです。建物は2階建てで、1階には、ブラジル人向けの旅行会社、不動産会社、電化製品屋などが入っており、日本の電化製品のパンフレットもポルトガル語のパンフレットがほとんどです。2階は、洋服店や、スーパー、飲食店があり、フロア中央には60人ほど座ってくつろげるスペースがあり、サッカーのワールドカップ開催日には、大型モニターを設置し、100人以上の人が集まり、夜中までワイワイ観戦したりするそうです（時には、外の道路まで繰り出し、警察が取り締まりに来ますが、なかなか言うことを聞いてくれないこともあるようです）。

ここで、我々は「ガラナ」ジュースを飲みながら、大泉町のブラジル人と日本人との共生ために活動をなさっている大泉日伯センターの高野さんから、大泉町と日系人の方々の歴史等を勉強させていただきました。日系人ガイドさんからもブラジルの文化を紹介していただきました。ポルトガル語の簡単な会話やブラジルの挨拶を教えてくださいました。ブラジル人同士が会った時には、頬っぺたに2・3回軽くキスする習慣のようですが、日本人に定着しなさそうだなと感じました。さすが、ラテン系の情熱的習慣だと思います。

また、スーパーには、見たことがないブラジル食材が沢山あり、大泉町で栽培しているブラジル野菜も売っていました。



皆に出された「ガラナ」ジュース



高野さんやガイドの日系の方々の話

【ランチタイム】

次には、ブラジルレストラン プリマヴェーラに移動して昼食です。

当日は、ドリンクバーに、ブラジル料理のビュッフェ、それに10種類以上のシュラスコというメニューでした。豆と肉を煮込んだフェイジョアードもとても美味しかったし、とにかく、豚肉、牛肉、鶏肉などの様々なシュラスコが、これでもかというほど出てきて、どれもとても美味しく、気づいた時にはお腹が満腹状態でした。今回は、ツアーに組み込まれていましたが、フリーで行った時には、同じコースで土日は、2,980円、平日はなんと1,980円で食べられるそうです。

通常のツアーでは、ここで食事をしながらサンバダンスを見学できるそうですが、当日は、午後からカルナバルの見学があるので、代わりにガイドの日系3世のパウロさんが、ボサノバや日本の演歌などの弾き語りをしてくださいました。パウロさんが言うには、演歌は、ブラジルでおじいちゃんたち（日系1世の方々）が歌っているのを聞いて覚え、ブラジルの歌は、日本に来てから覚えたそうです。



ビュッフェの料理



次から次に出てくるシュラスコ



パウロさんの弾き語り



店の前で記念撮影

【ブラジルスーパー等でのショッピング】

昼食も終わり、重たいお腹を抱え、次の目的地「バナナブラジル」へ移動。ここは、ちょっとしたブラジルの食べ物とお土産が売っていました。当日は非常に暑い日だったので、ブラジルのアイスキャンディー（アサイー（わかばきゃべつやし）味のキャンディーが多い）を買って食べる人がたくさんいました。

次に、ブラジルの大型スーパーへ移動。「TAKARA キオスケ」やその他にも周辺にはブラジルスーパーやパン屋さんやおもちゃ屋さんなど、ブラジル人向けのお店がたくさんあります。特に、パン屋さん「TOMI」の「ポン・デ・ケイジョ」（チーズパン）は、1個52円ながら、とても美味しく、地元でも人気だそうです。

スーパーには、ブラジルのソーセージなどが、これでもかと売っており、地元のブラジル人の方々は、ワゴン一杯に、肉やソーセージを買い込んでいました。



TAKARA キオスケ



キオスケの向いのスーパー



「TOMI」パン屋さん



ビルの1階はブラジル人向けのお店ばかり

【カルナバル】

いよいよ最後の「カルナバル」会場へ。途中、日本の学校へ行かない子どもたちのための非公認のブラジル人学校があったり、カラフルなアパートからブラジル人親子が買い物に出てきたり、日本人に会う方が、よっぽど珍しい印象を受けます。

カルナバル会場では、ステージ上で日本全国から集まったサンバチームの踊りが繰り広げられ、ステージ前の有料席では、沢山人（何故かほとんどが日本人の男性）がカメラを片手にサンバを見学していました。ステージを取り囲むグラウンドの周りには、群馬県の物産を始め、各国の屋台や物産を売るお店が軒を並べており、そこここで、外国人の方々が家族で休日を楽しんだり、ステージから流れる音楽に任せて踊ったりしていました。



カルナバルステージの様子



カルナバル会場周辺で思い思いに楽しむ人たち

【終わりに】

大泉町は人口の15%を外国人住民が占める日本で一番外国籍住民比率の高い町です。その中でも、日系ブラジル人の方々が72%を占めています。これは、大泉町が、北関東工業地帯の一角を担っており、三洋電機（株）や富士重工業（株）等の大きな工場があり、町が積極的に日系人労働者を誘致したことから始まっています。特に、今回のツアー地域は、三洋電機（株）と富士重工業（株）の工場に挟まれた地域であるため、外国人の集住率が非常に高く、野外看板もポルトガル語の看板が目立ち、フリーペーパー等もいたるところに置いてあり、スーパーで買い物をする人たちも、ほとんどが日系若しくはブラジルの方々に、本当にここが日本かと思われるような、まさしくリトルブラジルと表現しても良いような印象でした。そのような土地柄を活用した異文化体験ツアーは、非常に面白い試みだと思えます。参加者の皆さんも、十分に満足できた1日だったのではないのでしょうか。

しかし、実際には、地域に住んでいる日本人の方々との間でのコミュニケーション問題や、子どもたちの就学問題、医療問題、失業問題、文化の違いによる様々な問題があるのが実情です。

一般の日本人社会の中で腕にタトゥーをしていることは、決して通常ではありませんし、子どもが学校に行けないことは日常ではありません。ツアー参加者の一人が、タトゥーをしているブラジル人の人達を見て「彼らは温泉に行かないのかしら？」と言っていました。そこには、何気ない意見ですが、文化の違いだけで見過ごしていい問題といけない問題が潜在しているのではないのでしょうか。また、日本語能力が不足しているため、日本の学校に行っても何も分からないから行かない子ども、ブラジル学校に行きたくても、親が職を失ったために授業料が出せない家庭など表面上は分からない問題がたくさんあるのだと思います。

普段の観光では、このような社会問題を考えるチャンスはありません。このツアーは、美味しいブラジル料理を食べたり、ブラジル横町を楽しんだりしながら、一方では、在住外国人を取り巻く問題を当事者と話すことができたり、文化の違いをあからさまに見せつけられたり、日系人問題を少しでも理解するためにも、単なる観光と違って新鮮な体験でした。

皆さんも、ぜひ一度このツアーに参加し異文化体験をするとともに、自分たちの住む地域との違いや、どうすればより良い共生社会が実現できるかを考えてみてはいかがでしょうか。